

会議議事録（要旨）

会議の名称	令和3年度 第2回 三豊市男女共同参画社会づくり推進協議会
開催日時	令和4年3月30日（水）10:00～12:10
開催場所	三豊市役所危機管理センター3階 301会議室
出席者氏名	山神委員、北川委員、前田委員、大矢根委員、草薙委員、柚本委員、佐藤委員、高橋委員、石川委員、秋山委員
欠席者氏名	前川委員、西野委員、宮崎委員
事務局職員氏名	市民環境部 横関部長 人権課 西岡課長、河田主任
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「第4次三豊市男女参画プラン」策定にかかる各種調査について <ol style="list-style-type: none"> ① 市民・事業所等アンケート調査の結果報告 ② 市内事業所へのヒアリング調査実施について (2) 「第4次三豊市男女参画プラン」策定にかかる今後のスケジュールについて (3) その他 3 閉会
配付資料	<p>議題資料1-1 男女の働き方や生活についてのアンケート調査－報告書－</p> <p>議題資料1-2 男女の働き方や生活についての事業所アンケート調査－報告書－</p> <p>議題資料1-3 男女の働き方や生活についての高校生アンケート調査－報告書－</p> <p>議題資料2-1 市内事業所へのヒアリング調査実施について</p> <p>議題資料2-2 男女共同参画に関する事業所ヒアリング調査</p> <p>議題資料3 「第4次三豊市男女参画プラン」策定にかかる今後のスケジュールについて</p> <p>次第、委員名簿、配付資料</p>
その他	

議事内容（要旨）	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・開会 ・出席者確認
山神会長（進行）	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の公開について説明
山神会長（進行）	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の公開について意見があれば伺いたい。なければ公開とする。 ・議事（１）「第４次三豊市男女参画プラン」策定にかかる各種調査について、① 市民・事業所等アンケート調査の結果報告について、事務局より説明願いたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・配付資料確認、概要説明
（株）ぎょうせい担当者	<ul style="list-style-type: none"> ・議題資料１－１、１－２、１－３説明
山神会長（進行）	<ul style="list-style-type: none"> ・質問や意見、感想を一人ずつ伺いたい。
前田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画がまだ進んでいないと感じた。 ・１－３をみると、高校生は学校教育で学んでいるので、男女平等の意識をかなり持っているが、大人になったときに壁にぶつかることが予想される。そのとき私たちがどう応えていくか。また大人になる過程で「これはおかしい」と声を出せる社会にしていけないといけな。これが男女共同参画社会実現のきっかけにならないかと思っている。努力していけないといけな。
山神会長（進行）	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画に対する意識や情報は広がっているが、そういった声や悩みをどう解決していく道筋をつくるか、行政はどう対応するかを重視すべきだという話だったと思う。
草薙委員	<ul style="list-style-type: none"> ・１－１の１５ページの男女の平等意識について、学校教育の場は高い数字が出ていたが、確かにそう感じる。私たちの中高生時代、出席簿はまず男子、そして女子の順番、技術家庭科や保健の授業は男女別々が当たり前だった。しかし２０年くらい前からは、出席簿は五十音順で男女混在となっている。 ・一方、普段の生徒の状況を見ていると、女子生徒の方が強い。運動部に所属し、対外的にも活躍している男子も授業中はそうでもない。学校の間ではそうだが、いざ社会に出る、結婚するとき、生徒たちはどのように変わっていくのか、今のままではないだろうと、つい考えさせられる。
山神会長（進行）	<ul style="list-style-type: none"> ・私も大学に勤めているので、そう思う。体育会系なので、もう少し男性が頑張っしてほしい思いもある。そういったことを踏まえて、更に充実させていくという提案だと思う。
高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私は香川大学大学院の地域マネジメント研究科に通っており、先日大学院の修了式があった。８科か９科ある大学院に女性の学生は少ないが、総代を務めた女性は６人、学長賞を獲得したのも半数が女性だったので、女性は元気だと感じた。しかし社会に出ると、女性は出世できない、能力を発揮できない状況があり、それは何だろうと改めて感じた。

議事内容（要旨）	
高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの報告を聞いて、経営者が男女共同参画や管理職登用をやる、やらないという意識が一番大きいように思った。1-2の12ページの女性を管理職に登用する際の課題をみると「女性には家庭での責任があるので、長時間の労働を要求しにくい」という選択肢があるが、長時間の労働をすることが前提となっている社会自体がおかしい。新型コロナウイルス感染症の影響でワーク・ライフ・バランスが進み、これまで絶対やらないといけないと思っていたことが無駄であること、しなくてもよいことだと分かってきた。そういったことを経営者が改めて認識し、今後はワーク・ライフ・バランスを重視する経営方針に切り替え、長時間労働をしなくてもよい社会を経営者自身が考えていかないといけないと思った。 ・中小企業、とりわけ小さな企業になればなるほど、人的資源に限りがある現実はあるが、男性も育児休暇を取得することや病気で休むことが必ずある。経営者が人でなく組織にスキルを蓄積させていく体制に変えていくよう考えないといけない。弊社は約50人のうち10人くらいが女性だが、5月、6月に3人産休や結婚でいなくなるため、結婚しても辞めなくてよい社会、出産しても継続できる仕組みを改めて考えないといけないと思っている。アンケート結果からも、経営者は言い訳せずに制度や社会に仕組みを変えていくこと、会社として真剣に取り組む必要を感じた。
山神会長(進行)	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に説得力があった。副学長として付け加えると、学長表彰はほとんどが女性で、去年はほぼ全員女性だった。 ・1-2をみると、企業側にワーク・ライフ・バランスについてのずれがある。事業所のトップが方針などをきちんとしないといけない。貴重な意見だと思った。
秋山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・1-1の44ページの「男性が育児休業等を取得しない方がよいと思う理由」の選択肢に「家庭で育児や介護をしている女性に負担がかかるから」というのがあるが、休業中の賃金が不安定になるから取得しない方がよいという意味か、休業中なのにテレビを見ている、食事の支度をしない、ゴロゴロしているため負担だというような意味なのか。
(株)ぎょうせい担当者	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらかといえば後者です。男性が育児休業を取って家庭に入っても「子どもが一人増えたような感じになりそう」という話があるので、選択肢の一つとして設定しました。もちろん家庭によっては、賃金についてもあると思います。
秋山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢の文章だとそういった意味が読めないので「育児休業を取得した男性の世話までやる必要がある」を加えるなど、少し考えてもらいたい。
(株)ぎょうせい担当者	<ul style="list-style-type: none"> ・補足を検討します。

議事内容（要旨）	
秋山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 - 3 の 19 ページの「望ましい女性の働き方」についての結果を見て、がくぜんとした。若い年代は男女共同参画の理解が進み、働き方改革で女性もバリバリ働くという意識が三豊市でも育ってきていると思っていたが「子どもができたら働くことをやめて、子どもが大きくなったら再び働く方がよい」と思う人が 44.3%もいた。若い人に向けて、男女共同参画の意義などを理解して働いてもらえるようにしないといけないと感じた。課題点が浮き彫りになった。
山神会長(進行)	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうして高校生がこの選択肢を選んだかを考える必要がある。私は子どもの子育ても研究しているが、乳幼児期がとても大事だ。そのときの親の関わり方の時間も出てきている。そこも併せ持った形だと思う。ここは重要な問題だと思うし、どう考えていくか、分析した方がよい。
秋山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ マタニティハラスメントによって、人生が大きく変わった女性を知っている。男性からしたら一回きりの言動で、単なるマタハラかもしれないが、女性にとってはその後の人生を狂わせる出来事につながる、重要で大きなことであることを理解してもらえると嬉しい。
山神会長(進行)	<ul style="list-style-type: none"> ・ そのとおりで、あってはならないことだ。身近でということ考えさせられた。
石川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性の家事の方が増えている点について、まず女性よりも男性の給料の方が高い現状があるので、女性が家事をしないといけない仕組みがあると感じた。また三豊市に住む祖父母の様子や祭り、葬式などで、祖母はもちろん県外から来た母も炊き出しをしていた状況から、男性が優遇されていることが文化として根付いている点が強いている。高校生の意見も、そういう背景があるのではないか。 ・ 一方で、会社の休憩室を利用するのはほとんどが女性なので、男性が入りにくく、部屋にいても違和感がある。そういう面では女性が強い印象がある。
山神会長(進行)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な地域の問題を含めて話してもらった。
佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夫婦共にフルタイムで働いている家庭と、女性が育児休業中で家にいる場合の家事や育児の分担は違う。それが一つの表で「こういう傾向です」というのは、分析としてどうなのかと思った。例えば夫婦共にフルタイムで働いている家庭のデータがあれば、年代に応じた傾向が出るのではないか。母親たちの話を聞いていると、20代、30代は夫が家事や育児に関わっている家庭が多い。学校行事も積極的に参加している。年齢別や仕事別であるとよい。 ・ 1 - 1 の 15 ページで「社会通念・慣習・しきたりなど」では、男性の方がとても優遇されている割合が高くなっている。三豊市は同居率が高いと思うので、高齢の両親の価値観が子どもや孫に出てきているのではないか。夫婦間ではそうでもなくても、法事などの場面では高齢の両親の意見が強くなる。同居率からめた分析もあれば、傾向として見えてくると思った。

議事内容（要旨）	
佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1－3の21ページの希望する進路について、女性の理系大学（4年制）に進む割合が低かった。私の子どもが今年高校を卒業したが、通っていた理数科は男女の割合がほぼ半々だった。理論的な考え方に性差はないが、家庭で「あなたは女の子だから文系」という意識を小さな頃から刻まれているので、男性は理系、女性は文系を選ぶ子どもが多い傾向があると、アメリカの大学で言われていた。同居率も入ってくると思った。 ・ 1－3の19ページの「望ましい女性の働き方」の結果について、今の若い人は、専業主婦が憧れの職業になっているようだ。若い人の賃金が低く、働きたくなくても共働きをしないといけない現状なので「専業主婦をさせてくれる男の人がいいよね」という人が多い。それも関係しているのかなと思う。 ・ 男女共同参画を進める上で、子育て施策をもっと充実してほしいと思っているが、子ども中心になっておらず、保護者支援が中心となっている。子どもが健やかに育つような子育て施策でないといけないのではないかと。ワーク・ライフ・バランスなどの施策も、預ける場所といったハード面だけでなく、母親が困ったときに相談できる場所をはじめ、一人で子育てしなくてもよい施策や企業側が子育て家庭は早めの帰宅を促すなど、ソフト面の充実があるとよい。家庭の事情によって働き方が選べるような社会になるとよいので、そこを踏まえた計画を作ってもらいたい。
山神会長（進行）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分析について意見があったが、どうか。
（株）ぎょうせい担当者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書には掲載していませんが、集計しています。例えば共働きの男性が家事に費やす時間は「1時間未満」が非共働きよりも多い。逆に非共働きは、「家事などには関わらない」人が少し多いです。共働きの女性は「1～3時間」が多く、非共働きは「3時間以上」が多くなっています。共働きかどうかで、多少差が出ています。今の佐藤委員の意見は参考になるので、計画策定に当たり、課題を抽出する際に取り入れたいと思います。
山神会長（進行）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三豊市ならではの、もあると思う。いろいろな分析をしているようなので、確認して何らかの形で生かしたい。
柚本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートの自由意見は、全て網羅しているのか。
（株）ぎょうせい担当者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全て掲載しています。
柚本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的に分析してもらった。 ・ 市民、事業所、高校生とアンケートを行い、それぞれ膨大な質問に対して真面目に答えているだろうなと感じた。妥当な中身だと考えた。 ・ 特に、高校生の意見に関心を持って読んだ。最近の高校生は、教育の成果もあって知識はあると思うが、現実には事が起きたとき、すぐに報告した方がよいのか、どこにするかという判断など、対処要領がまだ不十分な点が多い。

議事内容（要旨）	
柚本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の経営者や上に立つ人は、人権や男女共同参画について何かしようという意図が伺われる。場を与えて、決まりを作り、相談員を付けてやろうとしている、やっている所が多い。周知して、それを使えるようにするまでが大事だろうと思う。策定したプランを市民全体や会社、学校等の教育に生かすことが大事なので、よろしくお願ひしたい。
山神会長(進行)	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなデータの分析や委員の意見を経て、行政が市民のためにやる時、事務局が挨拶で話したように、関係部署が連携して、どうしたら具体的に市民のためになるのかまでやってもらえたらという意見だと思う。縦割りの時代ではない。関係部署との連携を頑張ってもらいたい。
大矢根委員	<ul style="list-style-type: none"> ・興味を持って、1-3を読んだ。地域を支える人員、社会の構成員として、高校生たちが社会に出て男女共同参画社会づくりをしていくが、私たちの時代と比べて変わったと感じた。 ・私たちは柚本委員と、三豊市で男女共同参画ネットワーク会議を構成している。その中で議員や行政との意見交換会を通じて議論しながら、男女共同参画についての実践活動を進めている。今日の話や資料は参考になることばかりだ。具体的な実践例を生かしながら、行政を支える組織、政策決定の場への女性の参画という面でうまく機能していけば、よい社会づくりができると思った。
山神会長(進行)	<ul style="list-style-type: none"> ・組織としても検討しているということだ。
北川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から参加しているので、初めて調査結果を見た。5年前と比較すること、いろいろな意見があり、多少の変化はあると思うが、継続して調査を続けることは重要だと思う。今の高校生が5年後、社会人の立場になったとき、どのように意識が変わるのかなどが分かると思う。 ・調査について、比率の検定的なことはしていないと思うが、継続的に行っていく中で、この部分は統計的に比較すると明らかに違うなどが分かると、更にみやすくなると感じた。 ・この調査結果をどう生かしていくかが大事だ。大多数の考え方も大事だが、アンケートの中に載らない、10人くらいの少数の意見も大事な場合もある。例えばDVの被害は声に出せないの、自由記述も参考にしてもらえたらと思う。 ・私が行っているこども食堂では男性の協力があり、シングルファーザーもいる。その中で、男女それぞれ思うことがあるようなので、根本的に変えないといけない部分があると思うが、そこをどうしたらよいか難しく、いろいろと考えさせられた。
山神会長(進行)	<ul style="list-style-type: none"> ・私も勉強になった。 ・三種類の調査報告書で興味があったのは、1-1の52ページ、1-2の32ページで、どちらも「男女が共に働きやすい社会環境をつくるために必要なこと」だ。これはとても大事だ。1-3は同じ問いが無いが、19ページに「望ましい女性の働き方」というのがある。継続して調査するならば、次回は「望ましい男性の働き方」も入れてほしい。両方の意見を聞くべきだと思う。 ・アンケート調査について、事業所の方でも市民の方でも答えている場合はあるか。

議事内容（要旨）

<p>(株) ぎょうせい 担当</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もしかしたらあるかもしれませんが、人数は分かりません。
<p>山神会長(進行)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この問いの回答のトップは、1-1、1-2どちらも「男女で家事や育児、介護などに協力して取り組む」だ。表面的かもしれないが、事業所も念頭においているので、そこをベースにする。データはマジョリティを参考にするが、マイノリティも大切だ。 ・1-2の二番目は「残業を減らす、労働時間を短縮する」で、これは当然企業がやらないといけない。三番目には「男女が共に育児休業や介護休業を利用しやすくする」となっているが、その制度がない事業所もあるので、きちんと事業所側と向かい合うようにしていかなければいけない。「調査しました」で終わったら意味がない。せっかくここまでやったので、生かしてもらいたい。 ・1-3について、高校生はICTやスマートフォンなどで、私たちよりも情報があるので、どのように出していくかだ。行政はYouTubeなど活用しながら、やっていく。 ・今後10年で、今ある仕事の半分は変わると言われている。今の小中学生が大人になる頃、今ある仕事がどんどん変わっている。必要なのはDX化で、大学でもやっている。残業を減らすことも含め、ペーパーレス化も進めている。企業側もできる所からそういう取組を進めることが必要だ。 ・これからは学び直しが重要になってくる。企業側が再度大学や大学院に戻り、大学で企業の人を受け入れる「リカレント」や「リスキル」と呼ばれているものがある。また「クロスアポイントメント」といって、企業側の人に大学で働いてもらい、大学の人企業が働いてもらうことで、互いの良い所を学び合うというものもある。今後いろいろなやり方が出てくるので、企業側も関心を持ってもらったらと思う。地域マネジメント研究科に行ったことで、いろいろな情報が入ってくる。働くことに対して企業側の努力も実を結ぶ。 ・1-3の21ページの「希望する進路」で「専門学校・各種学校まで」が多かったことは衝撃だった。ユーチューバーになりたいなど、将来の仕事も変わってきている。なぜここを希望するのかを分析すると、若い人の仕事への捉え方が見えてくる。先ほど出てきた「子どもができたなら働くことをやめて、子どもが大きくなったら再び働く方がよい」も連動していると思う。男女共同参画にいろいろな部署が協力して取り組んでいく。 ・提案がある。今は男女共同参画よりも「ダイバーシティ」「多様性の社会」と言われている。ここは男女が中心だが、外国人や障がい者などもある。さらに「SDGs」は企業も関係しているので、この「誰一人取り残さない」考え方をダイバーシティの中に入れながら、行政の取組にトライしていくと、市民も浸透していきやすいので頑張ってもらいたい。 ・続いて、議事(1)「第4次三豊市男女参画プラン」策定にかかる各種調査についての「② 市内事業所へのヒアリング調査実施」について、事務局より説明願いたい。

議事内容（要旨）	
事務局	・議題資料2-1、2-2説明
山神会長(進行)	・続いて議事(2)「第4次三豊市男女参画プラン」策定にかかる今後のスケジュールについて、事務局より説明願いたい。
事務局	・議題資料3説明
山神会長(進行)	・これで議事を終了とする。
事務局	・挨拶 ・閉会

以上